

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

■宮崎県立図書館新館30周年	… P2
■県立図書館トピックス	… P3,4
■郷土資料情報	… P5
■オンラインでつながる情報	… P6
■図書館の案内コーナー	… P7
■県立図書館からのお知らせ	… P8

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(<http://www.2.lib.pref.miyazaki.jp/>)からもご覧いただけます。

節目の年



宮崎県立図書館長
金子洋士

史記の「内平らかに外成る」と書経の「地平らかに天成る」に由来する「平成」の時代が30年の歴史を刻んできた中、明治35年（1902年）創立の当館は、4代目となる現在の建物で昭和63年（1988年）に県総合文化公園内に建設されて30周年を迎えることができました。

こうした「節目の年」に、今後10年間の当館のあるべき姿や基本的役割、施策展開の方向性などを展望した「宮崎県立図書館ビジョン」及びそれを具体化する方策を示した向こう3年間の「第1期アクションプラン」をスタートさせることとなり、心機一転全力を傾ける覚悟であります。

当該ビジョンでは、市町村立図書館や大学図書館、学校図書館との密接な連携・協力と、それらを支える専門的人材の育成・確保や資質向上に努めながら、「知の共有・創造を支える全県図書館ネットワーク」の実現を目指すことといたしました。

当館の基本的役割として、第一に、子どもから大人まですべての県民が生涯にわたってどこでも読書に親しむ「日本一の読書県」の環境を全県的に整えていくこと 第二に、住民に身近な市町村立図書館や学校図書館の運営を支えていくこと 第三に、図書館において知が共有され、新たな知が創造される

ことで、深い学びや個人・地域の課題解決を図る拠点としていくことの三点を定めました。

これらを踏まえて、①全県的な読書環境と図書館ネットワークの核 ②県立図書館ならではの専門的なサービスの充実 ③「知の共有・創造」による深い学びや課題解決の支援 ④みやぎの文化の理解・継承の促進 ⑤図書館ネットワークを支える人材の育成の五つの柱に添って、今後、具体的な施策を展開してまいります。

中でも今年度は、読書離れの傾向が見られる中・高校生、大人それぞれの世代から中・高校生向けの本を薦め合うことによって、世代を超えて良書をつなぎ、読書への関心を高めていくことに主眼を置いた、「本で世代をつなぐ」活動に全力を傾けることといたしております。

職員一同、この「節目の年」に臨むに当たり、県の中核図書館としての役割と責任を改めてしっかりと認識し、一丸となって着実に成果を上げながら、全県的な図書館振興や生涯学習社会の実現、さらには、みやぎの「まち・ひと・しごこの創生」に積極的に貢献してまいりたいと考えております。

県民の皆様のご理解とご支援をよろしく願いたします。



宮崎県立図書館 新館30周年

宮崎県立図書館は、明治35年(1902年)5月に創立されました。全国の都道府県ではなんと3番目。場所は宮崎町上別府(現在の県庁南側)で、建坪47坪、蔵書2,300冊のスタートでした。

大正4年(1915年)に大正天皇の御大典を記念して2代目館が開館したのち、宮崎・都城・延岡の3館体制がとられ、名称が「宮崎県立宮崎図書館」に改められました。この名称は、昭和25年に県立図書館の設置条例が定められるまで続くことになります。

条例制定と同じ年に「緑陰通信」が創刊されました。当時の館長は、宮崎市出身の作家・中村地平でした。

中村地平は、昭和22年、社会が戦後復興に動きはじめ、近代図書館活動が幕開けする時期に第23代館長として就任。その旺盛な行動力と幅広い人脈を使って新たな事業を次々に打ち出していきました。日本十進分類法による図書の整理、文化ホールの新設、自動車文庫「やまびこ」の開始などがあり、当時の事業の多くは現在の図書館サービスの基礎ともなっています。



館長室と中村地平館長

昭和25年「緑陰通信」創刊号 巻頭言(抄)

新しい図書館の行きかたとして、活動の対象をかならずしも読書のみに限らず、宮崎県の文化及びリクレーションのセンターとして文化・社会教育一般の中心となりたい念願である。(中略) 縣下いづばんの産業人が、その事業や計画やの参考書類をしらべるために、氣がるに足を運べるようにしたいと私はかんがえている。すなわち、縣當局の現在の産業開發への熱意に呼應して、本館をよりひろくいづばん縣民の利用機關にしたいというのが私の念願なのである。

第23代館長 中村地平

昭和34年4月、隣接する県町村会館からの出火による火災が発生。2代目館の全焼という事態に見舞われました。人々の協力で蔵書が運び出されましたが、多くの貴重な資料や美術品が失われてしまいました。

この経験から2年後に完成した3代目館は、鉄筋コンクリート3階建て。大きくスケールアップするとともに、現在の図書館が有する知の拠点、生涯学習の場としての機能を備えていきます。

4代目館となる現在の「新館」は、昭和63年5月、それまでの場所を離れて宮崎県総合文化公園(宮崎市船塚)に立地しました。宮崎県の置県100年記念事業に由来するもので、「光と陰の織りなす綾」をテーマに建築されています。特徴的な外観をもつ建物となっています。屋内は、9,729㎡もの延床面積により、80万冊にも及ぶ収蔵能力の強化とあわせて、コンピュータシステムや視聴覚部門の設備が充実することとなりました。



開館当時の新館



開館記念式典

入館者は旧館の3倍以上に達し、開館から約21か月で100万人の入館者を数えたと記録されています。

平成30年に開館30周年を迎える新館は、平成という時代と両輪になり、その社会情勢に深く関わりながら歩み続けてきました。

奇しくも県立図書館では、節目となる平成30年度から10年間の「宮崎県立図書館ビジョン」を定め、新たな段階へ踏み出したところです。

明治以来の先人たちが築き上げてきた県立図書館というかけがえのない資源を有効に活用して、今後ますます地域社会に貢献していきたいと考えています。



県総合文化公園の上空写真



新館落成を祝う緑陰通信



■第60回こどもの読書週間

4月23日は「子ども読書の日」です。毎年、この日を含んだ約3週間を「こどもの読書週間」として、全国の公共図書館などがいろいろな催し物を企画しています。

今年も県立図書館では特別企画展示をはじめ、ワークショップ・演劇「ことばの世界をたのしもう～どんぐりと山猫～」、児童室担当職員によるワークショップ「へんしんカードをつくってみよう!」、読み聞かせを開催しました。

児童室での企画展示では、「ことばのせかい」と「幼年童話」をテーマに、オノマトペや言葉遊びなどの本や、絵本から児童書へのかけ橋となる幼年童話を紹介しました。1階ギャラリーでは「絵本どうぶつえん」と題し、動物園に見立てて8種類の動物が登場する絵本の数々を紹介しました。また、読み聞かせボランティア団体と児童室担当職員のおすすめの本、布の絵本、昨年度の児童室の貸出しベスト10などを展示しました。

4月21日(土)は、こふく劇場の代表で、さまざまな学校や舞台上で演劇をされている永山智行先生をお呼びしてワークショップと演劇の講座を開きました。幼稚園児から小学生までの子どもたちが参加するなか、言葉の面白さを感じられるワークショップと県総合文化公園での「どんぐりと山猫」



ワークショップの様子

の演劇を行いました。講座で紹介した宮沢賢治の本はもちろん、言葉に関する本もたくさん所蔵しているので、ぜひ本を借りて、言葉や物語の世界を楽しんでいただきたいです。

続いて5月3日(木)は、ワークショップを実施しました。へんしんカードと紙人形を作成しましたが、自分なりに考えたお話に合わせて作るなど工夫がされていて職員も驚かされました。作品を作り上げる喜びを味わい、親子で協力し合っってスキンシップを図る有意義な時間となったと思います。

今後も県立図書館では、子どもの楽しい読書を応援して、家庭や地域でも子どもの読書活動を推進していきます。



企画展示「絵本どうぶつえん」



演劇「どんぐりと山猫」

■県立図書館でイングリッシュスタート! ～「英語でたのしむおはなし会」開催～

5月6日(日)、小学2年生までの子どもたちを対象に「アメリカンシェルフ」の絵本を使った読み聞かせや簡単なゲームを通じて英語に親しんでもらおうと、宮崎県国際交流員のヘイン・キムさんを講師にお招きして「英語でたのしむおはなし会」を開催しました。

絵本の題名は「Where the Wild Things Are(かいじゅうたちのいるところ)」。主人公の姿になって子どもたちの前に現れたキムさんがまず英語で、続けて当館の職員が日本語で、1ページずつ交互にゆっくりと読んでいきました。子どもたちは、静かに聞き入っていました。

ゲームでは、その絵本に出てきた動詞(動作を表す英単語)を使い、みんなでその場で体を動かしたり、「Where is Thumbkin?(おやゆびさんどこ?)」という童謡を歌いながらの指あそびをしました。

最後はキムさんへの質問タイムでした。「どうやったら英語がうまくなりますか」という質問に、キムさんは「英語の歌を歌いたいとか、英語を身につけて外国に行きたいというように、英語を勉強してこれをやりたいという気持ちを持ち続けることが大切です」と答えていました。



■第1回緑陰コンサートで「懐音」を堪能

今年度の第1回となる「緑陰コンサート」を、5月3日(木)に開催しました。緑陰コンサートは、みどりの図書館づくりを進める県立図書館が長年実施しているおなじみのイベントで、近年ではレコードコンサートや吹奏楽演奏でお楽しみいただいています。今回は、レコードコンサートでした。県立図書館が所蔵するレコードを音源とする音楽鑑賞会で、ご米場のみなさまに当館の貴重な視聴覚資料を知っていただく機会ともなっています。

このレコードコンサートは、毎回、宮崎レコード音楽愛好会の方々にご協力いただきながら開催しています。豊富な知識と経験に基づいて準備くださった真空管アンプや大型スピーカーを使い、確かなコンディションでの鑑賞会を行うことができました。また、演奏前には、作曲家や指揮者、曲の舞台などの説明もあり、会場内を盛り上げていただきました。休憩時間中や終了後には、愛好会の方々にいろいろな質問も出されていました。

さわやかな風が吹く大型連休中の午後、懐かしいレコードの「音」を心ゆくまで堪能できたコンサートとなりました。次回は9月2日(日)開催予定です。どうぞお楽しみに。



■第1回子ども映画会をにぎやかに開催

緑陰コンサートと同じ5月3日(木)には、こちらも今年度第1回となる「子ども映画会」を行いました。「こどもの読書週間」行事のひとつとして、連休中に開催。いつもの会場は当館2階の視聴覚室ですが、今回は1階のギャラリーに席をつくり、オープンな雰囲気です約20名のご家族に楽しんでいただきました。

上映作品は、「うっかりベネロベ」「くまのジャッキー」でした。小さなお子様でも飽きず楽しめるよう、時間が短めのアニメ作品を上映し、上映中の出入りも自由にしていただけるようにしました。最後までご覧になる方もおられ、ゆっくりと楽しんでいただけたようでした。

今年度の子ども映画会は、全5回の開催を予定しています。次回は、夏休み中の開催です。2階視聴覚室にて、ご来場をお待ちしています。



- 第2回 7月27日(金) 14:00～ 「ピックと神々の秘宝」(上映時間96分)
- 第3回 8月 9日(木) 14:00～ 「ぼくは王さま しゃぼんだまにちようび」より(上映時間30分)
- 第4回 12月23日(日) 14:00～ 「神話の国の子どもたち」(上映時間87分)
- 第5回 2月10日(日) 14:00～ 「ミッフィーのおじいさまとおばあさま」(上映時間35分)

■未来へつなぐみやざきの神話・民話継承人財育成事業講演会

みやざきに伝わる神話や伝承などを次の世代に語り継いでいきたいという願いをこめて、5月12日(土)に「平成30年度未来へつなぐみやざきの神話・民話継承人財育成事業講演会」を開催しました。講師は、県立看護大学の館真晴教授で、「古風土記にみる日向神話」と題して約2時間の講演をいただきました。

講演は、宮崎はどうして「日向の国」と言われるのか、日向国風土記のような人物が書いたのかといった疑問をわかりやすく解いていくもので、参加者からは、今後も大館先生の話を聞きたいという感想をたくさんいただきました。以下は参加された方の感想の一部です。(原文のまま)



- 日向神話は古事記に比重が高いと思っていましたが、風土記にもかなり、日向神話に関する事項があるのを知りました。
- 古代の宮崎(日向)の位置が理解できた。
- 非常に内容の濃いもので、大変勉強になりました。日向国風土記逸文の解釈、考え方が分かり、非常に良かったです。また先生のお話を聞きたいです。
- 難しい内容を分かりやすく解説していただき、内容をなんとか理解することができました。また、別のテーマで講演を聞きたいです。



郷土資料情報

■郷土を学び、郷土を考える

～宮崎の歴史と文化に出会う時間～

	展示会・講座名	開催日・会期等	会場・時間等
展 示	企画展「没後90年 若山牧水」 特別展「日本の歴史拝見Ⅱ」 特別展「本に命を吹き込む 生頼範義展」	4月28日(土)～ 6月 3日(日) 7月21日(土)～ 8月26日(日) 10月20日(土)～11月25日(日)	2階:特別展示室 開室 9:00～17:00
	巡回展「江戸に学ぶ」	5月 8日(火)～ 5月31日(木) 6月12日(火)～ 6月30日(土) 7月 3日(火)～ 7月27日(金) 9月11日(火)～ 9月30日(日) 11月30日(金)～12月 9日(日) 1月23日(水)～ 2月18日(月)	宮崎大学附属図書館 日向市立図書館 宮崎日大中学校・高等学校図書室 えびの市歴史民俗資料館 日南市国際交流センター・小村記念館 宮崎市立佐土原図書館
	共催展「邁進究極速報展2018」 (主催:宮崎県埋蔵文化財センター)	9月 1日(土)～ 9月30日(日)	2階:特別展示室 開室 9:00～17:00
講 座	文化講座① 「慈れ!古代ロマン復元住居再生事業」 文化講座② 「和合の里 土呂久」 文化講座③ 「日本の宮崎牛を目指して」	6月30日(土) 講師:田中敏雄氏(宮崎県職員) 7月21日(土) 講師:川原一之氏(アジア企業ネットワーク理事) 8月25日(土) 講師:佐藤豊士夫氏(宮崎県職員)	2階:視聴覚室 13:30～15:30(各回共通)
	古文書講座① 「古文書に親しむ」(全1回) 古文書講座② 「佐土原藩嶋津家日記」を読む (全4回)	7月14日(土) 講師:郷土情報担当所属職員 8月 4日(土)講師:中元権一先生 9月 8日(土) 〃 10月20日(土)講師:柘植幹雄先生 11月10日(土) 〃	2階:視聴覚室(※) 13:30～15:30(各回共通) ※10月20日(土)2階:研修ホール ※11月10日(土)2階:研修ホール

■コラム「の」が「に」に変わるだけで

写真は、大正11年に若山牧水・喜志子夫妻が弟子の中村終花あてに送った絵はがきです。はがきには次のように書かれています。

昨日ここにまゐりました。溪の流れの音をきいて、はるかにあなたのことを語り合っております。お天気がよくてうれしい。これから一里ばかり山奥の瀬をみにゆかうと思っております。 喜志子

かきすわる道ばたの芝生枯れたれや 坐りて仰ぐ山ざくら花
うすすべにの葉はいちはやく萌えいでて、 咲かむとすなり山ざくら花
明日帰沼 廿二日上京 出て来ないか 牧水

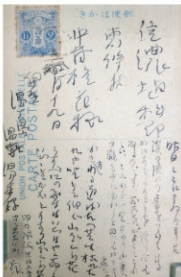
有名な山桜の歌が書かれています。牧水に詳しい方はお気づきになったでしょうが、歌い出しの「うすすべにの」は歌集では「うすすべに」に改められています。このことについて、牧水の高弟の大悟法利雄は次のように述べています。

「うすすべにの」では単に葉の色の説明だけに終ってしまうが、「うす紅に」なら「うす紅色に萌えいでて」と鮮やかな描写になって来るから、これは当然そうあるべきである。

この歌は、何の奇もなく、淡々と歌われているけれど、その流れるような、美しくさわやかな声調は、作者の大きく豊かな感動から自然に流れ出ており、一読してうらかな春の日ざしの中にかがやく鮮麗な山ざくらをくつきりと眼に浮かばせ、読者を作者があじわった歎びに浸らせる。作者自身も心作の一つに数えていたもので、中学校高等学校の教科書などにもよく出ていて、牧水の代表作として広く愛誦されている歌である。

『鑑賞 若山牧水の秀歌』(短歌新聞社)より

たった一つの文字で、歌の持つ情景が大きく変わる短歌の世界の奥深さと牧水の創作への真摯な姿勢がうかがわれます。





オンラインでつながる情報

■マイラインサービスで本をお届けします！

宮崎県立図書館がもっと身近に!

ご希望の本を、2日でお近くのまちの図書館にお届けします!

マイラインサービス (My Line)

090-9999-1111

マイライン (Miyazaki Prefectural Library Advanced Information Network Systemの略) とは、宮崎県立図書館と県内の市町村立図書館・図書室を結ぶオンラインネットワークのことです。

読みたい本がお近くの市町村立図書館・図書室(ただし、合併前の宮崎市、清武町は除きます。) がないとお困りの方や、県立図書館の本を利用したいとお考えの方には、マイラインサービスがおすすめです。

県立図書館にご希望の本の所蔵があれば、市町村立図書館・図書室窓口を通じて貸し出しをすることができます。県立図書館にお越しただかなくても、県立図書館の本が利用できる便利なサービスです。(ただし、雑誌の最新号及び持出禁止の図書資料は除きます。)

このマイラインサービスは毎日(土日祝日も)発送していますので、早ければ2日でお近くの市町村立図書館・図書室に本が届きます。

無料でご利用いただけます。ぜひご利用ください。

■フェイスブックページで情報発信中!

宮崎県立図書館公式フェイスブックページ(平成28年4月開設)をご存知ですか。

好評公開中のインターネットホームページとはまた異なるスタイルとコンテンツによる情報発信プラットフォームとして、県立図書館を挙げて運用しています。ほぼ毎日更新中!

日ごろSNSをお使いの方もそうでない方も、図書館のホットな情報をぜひご覧ください。みなさまのフォローと「いいね!」をよろしくお願いします。



facebook

Live! Library
Miyazaki Prefectural Library
宮崎県立図書館
@miyazaki.prefectural.library
ホーム

URL <https://www.facebook.com/miyazaki.prefectural.library/>

■おすすめの本@県立図書館ホームページ

県立図書館
おすすめの本

平成30年2月から、県立図書館のホームページに「おすすめの本」のコーナーをつくりました。

県立図書館では、生涯読書活動の推進に取り組んでいます。各世代に応じた読書のすすめや情報発信に努めることとしており、その一環として公開をはじめたのが「県立図書館おすすめの本」です。

このコーナーでは、当館がおすすめする本をテーマごとに集めてご紹介しています。あらゆる世代のみなさまに興味を持っていただき、幅広くお使いいただけるような内容にまとめました。上のバナーが目印です。本選びのヒントとしてぜひご覧ください。不定期でテーマ追加中!

ご紹介している一例

なつのほん2017 と 夏のもう1冊	児童室からセレクトした心温まる楽しい絵本・児童書の数々。(2017夏バージョン)
よく読まれた本2017・2018年(青少年コーナー)	閲覧室の青少年コーナーで人気の高かった本を集めてみました。
「わたしの本」 (MRT宮崎放送「みらい・みやざき まなび隊」より)	宮崎県では、日本一の読書県を目指しています。番組内の「わたしの本」では、県民のだれもが本に親しむ機会を提供しています。
名誉館長おすすめの本	歌人で牧水研究家の伊藤一彦名誉館長のおすすめです。どれも貸出必至の人気本です。
「私のすすめるこの一冊～高校生の声」	県内高校生のみなさんを感動させ、心の糧となり、人生を考えるきっかけともなった名著たち。

図書の案内コーナー



県立図書館の本田 潤一副館長おすすめの本

『ないたあかおに』

浜田廣介/作 野村たかあき/絵 講談社 2013.11 講談社の名作絵本

真の友情とは何なのか。自己を犠牲にした献身的なものなのか。自分は孤独だと悟るのは、人間としての成長なのか。結末での唐突の別れが、様々な視点から後の物語を連想させ、過去の自分を見つめ、新たな生き方を見いださせるかもしれない。併せて「友情」(武者小路実篤)、「高瀬舟」(森鷗外)。



健康情報

『忘れんぼさんへのマナー』

ジョアン・サウアーズ/著 長澤あかね/訳 扶桑社 2017.1

自分の夫と義父が認知症になったという体験から生まれた本です。原書は「Forgettquette」。「忘れる」と「エチケット」の造語。認知症の人に接する時のマナーを、著者が愛情あふれる言葉でユーモアを交えて優しく語りかけてくれます。



一般

『甘藷煎再現プロジェクト よみがえる古代の甘味料』

山辺規子/編著 かもがわ出版 2018.3 奈良女子大学文学部(まほろば)圖書

清少納言の枕草子第42段の「あてるもの」。「削り氷にあまづ入れて、新しきかなまりに入れたる。〜」あまづら(甘藷)とはかき氷のシロップみたいなもの。どんな味が想像していましたが、その甘藷を再現するとは？再現実験の甘藷煎を試食した感想を見てよだれが出そうになりました……一度食べてみたい。



ビジネス

『入社1年目女子仕事のルール 大切だけれどなかなか教えてもらえない』

平原由紀子/著 日本能率協会マネジメントセンター 2018.3

先輩たちが失敗した経験談をもとに、同じ失敗を繰り返さないための仕事以前のルールをまとめて紹介。女子だからこそ知っておきたい「社会人の基礎の基礎」を解説します。「雑用をこなせる人は「仕事ができる人」」「社会人になつてからは自分で行動を起こさないと、何も起こりません。」など、新人でなくても再確認しておきたい内容が入っています。



青少年

『世界を変えた50人の女性科学者たち』

レイチェル・イグトフスキー/著 野中モモ/訳 創元社 2018.4

世界を変えた女性科学者50人が、見開き1ページで紹介してある、おしゃれで魅力的なビジュアルブックです。難しい漢字にはルビも振ってあり絵本感覚でイラストを楽しめます。本文の周囲には豆知識も満載。もっと詳細を知りたい人には、ウェブサイトも紹介してあります。差別に負けずひたむきに諦めず夢を追うことのできることにワクワクします。女子達だけでなく、男子達も大人達も是非読んでみてください。



児童書

『王さまになった羊飼いの童話』

松瀬七織/再話 イオンギョン/絵 福音館書店 2018.3 世界傑作絵本シリーズ

まず、ひつぱい、しょうぶん、いちにちちちちち、しょうよく、た、貧しい羊飼いの少年は、一日一枚のツアンパ(チベットの主食)しか食べられず、いつもおなかをすかしていました。草原で出会ったうさぎに「どうせおなかいっぱいにはならない。きみにあげてもおなじ」と、ツアンパを毎日分けてあげます。そして100日が過ぎたある日、なんとうさぎがすかたをかえて…？

●昨年度の児童書の貸出ベスト10

1	はらぺこあおむし	エリック・カール/さく 偕成社	6	からずのパンやさん	加古聖子/絵と文 講談社
2	しろくまちゃんのほっとけーき	わかやまけん/著 こくも社	7	三びきのやぎのらがらどん	マーシャ・ブラウン/え 福音館書店
3	おふろだいすき	松岡享子/作 福音館書店	8	じごくのそうべえ	田島征彦/作 集心社
4	100万回生きたねこ	佐野洋子/作・絵 講談社	9	14ひきのひっこし	いむらかずお/さく 集心社
5	ぐりとぐらのえんそく	中川孝枝子/文 福音館書店	10	ぐりとぐらのかいすいよく	なかがわりえこ/さく 福音館書店

県立図書館からのお知らせ

■がん情報コーナーを設置

県内のおもな医療機関に置かれている「がん相談支援センター」では、がん患者さんやご家庭にかかわる治療や療養生活全般への心配、不安、お困りことなどについてのご相談をうかがっています。

県立図書館では、がん相談支援センターとの連携によって、2階ロビースペースにがん情報コーナーを設置しています。

今後、がん相談支援センターと協力しながらますます資料を充実させ、課題解決のお役に立ちたいと思っています。1階閲覧室内の健康情報コーナーともお気軽にご利用ください。



■宮崎大学との連携協定を締結

平成30年4月、宮崎大学と宮崎県立図書館は、お互いに連携して地域の振興と発展に努めるための連携協定を結びました。

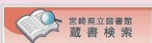
宮崎大学の全学と県立図書館とが手を組むことで、知の共有・創造の拠点としての力を高め、学術や教育、文化の継承と発展を進めることをとおして地域に貢献していくことを目標としています。

今後、この強いパートナーシップを活用して、講座・イベントの協力的な実施、レファレンスサービスの充実・強化、当館の図書利用における利便性の向上などを図ります。学生や当館利用者をはじめ、みなさまの学びの場を豊かにしていきたいと考えていますので、どうぞご期待ください。



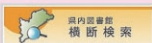
ミニ調べ方ガイド

図書館の検索機能を使って、読みたい本をインターネットで探す方法についてご紹介いたします。



宮崎県立図書館
蔵書検索

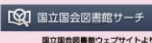
- ①県立図書館にあるかどうか調べます。(宮崎県立図書館蔵書検索)
「県立図書館ホームページ」→「宮崎県立図書館蔵書検索」
<https://www.lib.pref.miyazaki.lg.jp/wjn/opac/search-detail.do?lang=ja>



県内図書館
横断検索

- ②県立図書館になかった場合は、県内の公立図書館にあるかどうか調べます。(県内図書館横断検索)
「県立図書館ホームページ」→「県内図書館横断検索」
http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/?page_id=94

横断検索では、県立図書館のホームページから県内の公立図書館の蔵書の検索ができます。



国立国会図書館サーチ

国立国会図書館ウェブサイトより

- ③県内の公立図書館になかった場合は、他県、政令市の公共図書館にあるかどうか調べます。
「国立国会図書館ホームページ」→「国立国会図書館サーチ」
<http://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチから全国の都道府県立・政令市立図書館、国立国会図書館の蔵書が検索できます。

※県立図書館にない図書を他館から取り寄せるサービス(相互貸借サービス)を行っています。
相互貸借サービスのご相談、お申し込みは1階閲覧室の4番カウンターで受け付けています。



県立図書館が現在の建物となってから今年で30年。今回の図書館フェスタはその祝賀イベントとして開催します。お楽しみに！



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日)
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：2/18～2/25

編集・発行

● 宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911(総務・企画課)
FAX ■0985-29-2491(総務・企画課)
HPアドレス ■<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

